

南八ヶ岳西面アイスクライミング

裏同心ルンゼ、ジョウゴ沢

2008/12/6~7

L河崎、斉藤(記)、他1

いよいよ待望のアイスシーズン到来。今回は年末合宿の黄蓮谷行きを共にするメンバーで八ヶ岳の赤岳鉱泉をベースに裏同心ルンゼと三叉峰ルンゼを登る予定だ。このルートはちょうど1年前、山友会に入会して2ヶ月程の私がアイスクライミングを初めてやった、思い出深い場所だ。それ以来アイスの魅力に引き込まれてしまった。その時に誘ってくれたのが、今回の山行も共にする河崎さんであった。1年前の記憶に思いを巡らせながら、前夜泊場所の甲斐小泉駅にて眠りに就く。

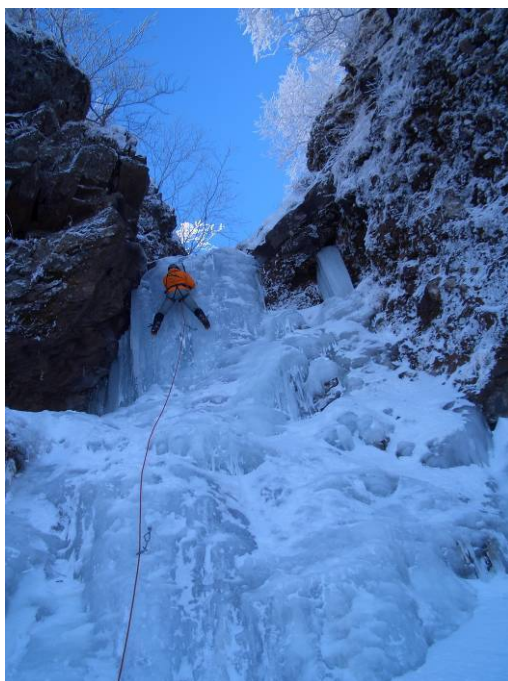
12/6

朝、目を覚ますと朝日に照らされた南アルプスが輝いていた。前日の夕方、仕事場のある厚木では、物凄い暴風雨だったが、高い山では雪だったらしく樹林帯まで真っ白に見える。朝食後、車で美濃戸へと向かう。思いのほか美濃戸までは積雪は少なかった。駐車場に車を止め赤岳鉱泉へと向かい歩き出す。2時間程の歩きで赤岳鉱泉の幕営地に到着すると、既に気の早いクライマー達が出撃準備を整えている。はやる気持ちを抑えテントをはり、こちらもスタンバイ。いよいよ裏同心ルンゼへと向かう。F1に着き早速、氷の感触を確かめながらロープを出さずにフリーで越える。遡行を続けると傾斜の緩いナメはみんな雪に埋まってしまっているようだ。氷の露出している滝も積雪の影響で難度が落ち、ロープを出さずに行ってしまうが、練習の為1度だけロープを出す。次には、どんな滝が現れるかな、と進むとこのルートの終了点となる大同心が姿を現した。「あれっ、もう終わ

り・・・」何だか消化不良に終わった遡行であった。テントに戻ると早い時間から、アイスシーズンの始まりを祝う、楽しい酒と鍋を始めた。

12/7

無風快晴、雲ひとつ無い空が明るくなり始める。気温は-18 と寒い。前日の裏同心ルンゼのコンディションもあり不安をかかえつつ、三叉峰ルンゼへと向かう。ラッセルで、埋まったF1、F2を越えF3大滝に着くと、氷が発達しておらず、滝が下まで届いていなかった。これでは登りようがないとジョウゴ沢へと転進する事に決める。来た道を引き返し、テント場を越えジョウゴ沢へと入る。F1からF3をフリーで越えその先の右俣へと入る。正面に右俣大滝20mが現れる。下段は傾斜が緩いが上段はバーチカルで落ち口へと続く。河崎さんのリードに続き、私もリードでアタックする。前日にあまり慣れる事が出来なかった為か、力んでしまって半分程登った頃には、すでにパンプしてしまった。



フィフィを使い充分休み核心へと進む。パンプしてアックスを振る手に力が入らないが、

必死に落ち口まで登ったとたん、力が尽きて落下。あまりの登れなさ具合に愕然とする。気分を変えて乙女の滝へと向かう。右俣を下り、本谷を少し上流へ上った所で右のレンゼに入る。小さなナメ滝を越えるとV字状に切れ込んだ暗いレンゼの先に乙女の滝が太陽の光を浴びて輝いている。その光景に思わず足がとまる。取り付きに立ち、見上げると20mはあるだろうか？相当難しそうだ。



2日前の天候の荒れ具合が峪全体に付いたエビのシッポによってうかがい知れる。かなり強い風が谷を吹き抜けたようだ。まずは河崎さんがリードで登る。私はとても太刀打ち出来そうも無いのでトップロープを垂らしてもらおう。1回目は右側の弱点をついたラインを登る。なんとかテンションをかけずに登る事が出来た。次は左の切り立ったラインを皆でトップロープでのチャレンジだ。休み休みだが、上まで抜ける事が出来た。



最後にはだいぶ感覚を掴む事が出来、大変充

実したクライミングを楽しむ事が出来た。テン場に帰り夕日に輝く大同心を背に帰路についた。

